



ドイツ音楽の父と呼ばれるハインリッヒ・シュッツ（1585～1672）は、その晩年にルカ、ヨハネ、マタイの各福音書に基づく受難曲を作曲しました。いずれの曲も冒頭と終結部以外は福音書の言葉のみが用いられ、進行役のエヴァンゲリスト（福音史家）はじめ、すべての登場人物がすべてアカペラ（無伴奏）で歌い通すという、非常にシンプルなスタイルが採られています。受難曲というと、J.S. バッハの壮大な受難曲が思い浮かびますが、その約60年前に作曲されたシュッツによるイエス・キリスト受難の物語をぜひ聴きにご来場ください。字幕付きで演奏します。

出演者



田尻 健

Takeshi Tajiri

客演指揮 / テノール

熊本県出身。関西学院大学法学部法律学科卒業。エリザベト音楽大学大学院音楽研究科宗教音楽専攻修士課程修了。フランスのオーベルヴィリエ・ラ・クールヌーヴ地方音楽院にてバロック声楽の DEM(音楽研究資格)

取得。ヘンデルの「メサイア」、バッハの「ロ短調ミサ」、モーツァルトの「レクイエム」などのソリストとして様々なコンサートに出演。ベアータ・ムジカ・トキエンシス、古楽アンサンブルコントラポントのメンバー。Hiroshima Bach Soloists 主宰。エリザベト音楽大学非常勤講師。



及川 豊

Yutaka Oikawa

テノール（福音史家）

盛岡市出身。岩手大学教育学部及び東京藝術大学音楽学部声楽科を卒業。バロック・ルネサンス時代の音楽を中心にソリストやアンサンブル歌手として活躍しており、ラッソ、スカンデッロ、シュッツ、バッハ、ディストラー、ヘルツォーゲンベルクなどの宗教曲では福音史家を務めた。また2014年にシューマン「詩人の恋」を全曲演奏し、2016年より定期的に「シューマンに恋して」と題したリサイタルを続けている。ベアータ・ムジカ・トキエンシス他多くのアンサンブルの演奏会、録音に参加。聖グレゴリオの家宗教音楽研究所合唱講師。ブログ「おいおいのすきま」<http://morioi.blog76.fc2.com>

トラ、ヘルツォーゲンベルクなどの宗教曲では福音史家を務めた。また2014年にシューマン「詩人の恋」を全曲演奏し、2016年より定期的に「シューマンに恋して」と題したリサイタルを続けている。ベアータ・ムジカ・トキエンシス他多くのアンサンブルの演奏会、録音に参加。聖グレゴリオの家宗教音楽研究所合唱講師。ブログ「おいおいのすきま」<http://morioi.blog76.fc2.com>



小笠原 美敬

Yoshitaka Ogasawara

バス（イエス）

東京藝術大学大学院修了。故・小笠原克美、高橋大海、マックス・ファン・エグモント、ノーマン・シェトラ、ペーター・コーイの各氏に師事。平成14年度文化庁芸術家在外研修員。ソリストとして鈴木雅明、鈴木

秀美、寺神戸亮、渡邊順生、フィリップ・ヘレヴェッヘ、フィリップ・ピエルロー、ヘルマン・マックス各氏等と共演。声楽アンサンブルに精力的に取り組み、日欧で世界屈指の古楽アンサンブルのメンバーとして活躍する。各地の音楽祭に客演し、古楽を中心に数多くの演奏会や録音を行う。モンテヴェルディ「マドリガーレ全集」等CD録音多数。ラ・フォンテヴェルデ、ベアータ・ムジカ・トキエンシス各メンバー。



太田 耕平

Kohei Ota

テオルボ

2001年よりイタリアに渡り、クラシック・ギターをヴィチェンツァ国立音楽大学にてS.グロンドーナ氏に師事。2007年、当大学を最高点首席にて卒業。2008年よりドイツ、フランクフルト国立音楽大学にてリユー

トを今村泰典氏に師事。2014年、当大学を卒業。2016年に帰国。福岡を拠点に演奏活動のほか合唱団「コール・グラウベン」の指導や音楽講座の開催など、多岐にわたる活動を展開している。「音楽教室キタラ」代表講師、九州の古楽団体「ぼんぐう」の代表を務める。

会場アクセス



コーロ・ピエーノ 合唱

1981年の結成以来、西洋音楽の原点といわれる中世・ルネサンス音楽に取り組み、ア・カペラ（無伴奏）合唱の純粋な響きや小編成の声楽アンサンブルの軽妙さ、古楽器との協演などを通して、比較的演奏機会の少ない当時の音楽の魅力、楽しさを伝えようと活動を行ってきた混声合唱団。新・福岡古楽音楽祭や合唱祭への出演、年に1回の自主公演などを活動の柱としている。



コーロ・ピエーノ

http://fine.music.coocan.jp/CORO_PIENO/index.html